

本の紹介



介護殺人—追いつめられた家族の告白

毎日新聞大阪社会部取材班／著
新潮文庫
605 円（税込）

毎日新聞大阪本社の取材。
この本では多くの肉親に手をかけてしまった妻、夫、子の声を直接に取材したもの。紹介されている事件の中にはわたしたちが住む乙訓の川向こう「淀」で起きた息子による認知症の母を殺めてしまった事件も取材されている。
この息子は母との心中を企て自分だけが残ってしまったのだ。

この息子さんはとても熱心に献身的に介護をしていた。その孝行息子を追い詰めてしまったものは誰か？
仕事は介護の為に辞めた。支えるサービスを使いたくともお金がない。なんとかしたいと福祉事務所に生活保護の相談にも行った。だが、本来ならば保護を受けられる環境に合ったのに福祉事務所はこの親子を見放した。結果利用サービスはさらに減らさざるを得なかった。

当然仕事もできない。追い詰められた息子さんは母に手をかけ罪に問われた。彼は執行猶予の判決を受けた。裁判官は「裁かれているのは被告だけではない。介護制度や生活保護のあり方も問われている」とこの事件を起こしてしまったのは決して息子さんだけの問題ではない事を理解して判決を下したのだ。
この息子さんは事件後琵琶湖で自殺し母の後を追った。

本書で紹介されたひとつひとつの事例は家族の愛情を受け止め支える社会は日本にはないという事を示しているのではないだろうか？いまは家族どころか介護に携わる専門職も追い詰められている。施設ですら虐待が頻回に行われる時代が今だ。

さかんに用いられている「自己責任」という言葉。この言葉で「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を保障する責任を負う国の責任を免罪してはいられない。

この取材に重い口を開いたひとり一人の無念を晴らすには国のあり方を変えることが必要だ。

認知症介護

ヘルパー日常 パート 3

いつものように認知症のOさんのお宅へ訪問
いつもにまして不安な様子です
何やらソワソワ…

ヘルパー「どうされましたか？」

Oさん「あなた、他のお仕事探してもらえますかね？」

ヘルパー「え？わたし…????」

Oさん「わたしは、滋賀県で一人暮らしをすることになりました」

「ですので、来ていただいてもおりませんので…」

ヘルパー「あら、そうなんですね。わかりました。探しますね」笑

Oさんについ、安心されホットした様子…

その後何もなかったように新聞を熱心に見ておられ、ヘルパーもいつものように家事をこなします。

自分が居なくなるから、ヘルパーの仕事の心配をしてくれるなんて…☆

やさしいOさんでした。

これからよろしくお願いします。

有限会社 おとくに福祉研究所
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824
長岡京市天神4丁目7-12 ハイッ東台101号
TEL 075-958-2560 FAX 075-957-2808
E-mail info@fukushi-club.com